

「APW」樹脂窓シリーズ、首都圏販売が好調
「埼玉窓工場」新ライン増設、生産能力 1.4 倍
操業開始 10 年、総生産窓数 約 330 万窓

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：堀 秀充）は、**2021 年 7 月で操業 10 年を迎える YKK AP「埼玉窓工場」（埼玉県久喜市菖蒲町台）**で、首都圏の樹脂窓需要増加に対応するため、新ラインを増設します。

新ラインでは、**主力商品の高断熱樹脂窓「APW 330」**を生産します。**自社製の独自の生産設備**により、樹脂フレームの切断加工、溶着・部品付工程、更にライン内搬送を自動化した高効率な生産を行います。同工場内では断熱性能に優れた窓ガラス「Low-E 複層ガラス」や防火／準防火地域で使用される「耐熱強化ガラス」の製造も行っています。「APW 330」生産ラインでは、家一棟単位での生産を行っており、首都圏を中心とした関東エリアの住宅建築現場にタイムリーに窓を供給しています。



「APW 330」施工イメージ

YKK AP は、今年度スタートした第 6 次中期経営計画で「モノづくり改革の実現」を事業方針に掲げ、技術力強化やスマートファクトリー化によるモノづくり改革に取り組んでいます。今回増設する新ラインにより、省人化と高効率化を実現することで、埼玉窓工場の樹脂窓**生産能力を従来の 1.4 倍に向上**させます。この設備投資金額は約 13 億円となります。

■ 埼玉窓工場について

埼玉窓工場は、当社初の“窓”の製造供給拠点として 2011 年 7 月に操業を開始しました。当社の窓の中核工場と位置づけており、ここで生産する樹脂窓は、断熱性能に優れ、健康で快適な生活環境を提供し、持続可能な社会へ貢献します。商品ラインアップの強化や提案・普及活動により、供給エリアである、**首都圏での「APW」樹脂窓シリーズの販売窓数は、操業時の 2011 年と比較して約 13 倍に拡大**しています。また、**埼玉窓工場は、操業開始から 2021 年 7 月までの総生産窓数は約 330 万窓**となりました。



埼玉窓工場の外観

【参考】埼玉窓工場の概要

操業開始	2011年7月
所在地	埼玉県久喜市菖蒲町台（菖蒲南部産業団地）
敷地面積	86,716 m ²
従業員数	441名（2021年4月1日現在）
工場長	木田 秀隆